

I デザイン競技の概要・応募状況

| 競技名称

- ・新国立競技場基本構想国際デザイン競技

| 競技方式

- ・公開デザイン競技

| 主催者・事務局

〈主催者〉

- ・独立行政法人日本スポーツ振興センター

〈事務局〉

- ・新国立競技場国際デザイン競技事務局

| 目的

- ・2019年に日本で開催されるラグビーワールドカップ、および2020年に開催が予定されるオリンピック・パラリンピック競技大会を視野に入れた国立競技場の改築に係る新国立競技場基本構想デザイン案を募集する。

| 審査体制

- ・選定に当たっては、審査委員会を設置し作品を審査する。審査は2段階で行い、一次審査で最優秀候補作品を数点選考し、二次審査で最優秀賞1点、優秀賞1点、入選1点を選定する。また、審査委員会は事務局に専門アドバイザーを置き、基本構想案の実現性の確認を行うこととする。
- ・審査委員会に先立って、応募作品について、実現性等や観点から、専門アドバイザーを総括とした技術調査員および支援チームによる技術的な調査を行う。

〈審査委員〉

施設建築にかかる有識者審査委員

委員長	安藤 忠雄 (東京大学名誉教授)
委員	鈴木 博之 (青山学院大学教授)
委員	岸井 隆幸 (日本大学教授)
委員	内藤 廣 (前東京大学副学長)
委員	安岡 正人 (東京大学名誉教授)

スポーツ利用に係る有識者審査委員

委員	小倉 純二 (財団法人日本サッカー協会会長)
----	------------------------

文化利用に係る有識者審査委員

委員	都倉 俊一 (作曲家、一般社団法人日本音楽著作権協会会長)
----	-------------------------------

日本国以外の国籍を有する建築家審査委員	
委員	リチャード・ロジャース（英国建築家）
委員	ノーマン・フォスター（英国建築家）
主催者	
委員	河野 一郎（独立行政法人日本スポーツ振興センター理事長）
専門アドバイザー	
和田 章	（東京工業大学名誉教授、日本建築学会会長）
〈技術調査員〉	
総括管理	和田 章（東京工業大学名誉教授、日本建築学会会長）
建築分野	
構造	三井 和男（日本大学生産工学部教授）
建築設備	
メカニカル	藤田 聡（東京電機大学工学部教授）
空調	川瀬 貴晴（千葉大学大学院工学研究科教授、建築設備次術者協会会長）
音響	坂本 慎一（東京大学生産技術研究所准教授）
施工・品質分野	野口 貴文（東京大学工学系研究科建築学専攻准教授）
都市計画分野	関口 太一（株都市計画設計研究所代表取締役）
積算分野	木本 健二（芝浦工業大学工学部建築土木学群建築工学科教授）
事業計画分野	東 洋一（株日本総合研究所都市・地域経営戦略グループシニアマネージャー）
建築法規分野	
防災計画	河野 守（東京理科大学工学部第二部建築学科教授）

| 応募・審査スケジュール

〈応募〉

・募集要項交付開始	平成24年7月20日
・登録受付期間	平成24年7月20日～平成24年9月10日
・質疑受付期間	平成24年7月20日～平成24年8月20日
・質疑回答	平成24年9月3日
・作品受付期間	平成24年9月10日～平成24年9月25日

〈審査〉

・技術調査期間	平生24年9月26日～平生24年10月8日
・技術調査会議	平成24年10月8日
・予備審査	平成24年10月12日
・一次審査	平成24年10月16日
・二次審査対象作品発表	平成24年10月30日
・二次審査	平成24年11月7日
・審査結果決定（有識者会議）	平成24年11月15日
・審査結果発表	平成24年11月15日
・表彰式	平成25年3月19日

| 提案内容

- ・スタジアムの外観パース
- ・スタジアムの内観パース（ラグビー・サッカー使用時、陸上競技使用時、コンサート使用時）
- ・外観および内観パースのコンセプト説明
- ・スタジアムの施設建築計画・概略設計（計画・設計趣旨、配置図、各階平面図、立面図、断面図、アクセス及び動線処理の考え方）
- ・以下のテーマ別の計画提案
 - ①臨場感あふれる観覧席に関する考え方
 - ②観客等の周辺駅からスタジアムへのアクセスおよび入退場動線処理に関する考え方
 - ③ホスピタリティ機能およびスポーツ以外のスタジアムの利活用に関する考え方
 - ④環境配慮に関する考え方（省エネルギー、エネルギー多重化、緑化など）
 - ⑤構造計画、屋根の架構および開閉機構に関する考え方
 - ⑥事業費および工期に関する考え方

| 審査結果発表および表彰式

〈審査結果発表〉

- ・審査結果は、専用ホームページで公表するとともに、すべての応募者に対して電子メールで通知する。
- ・一次審査では、審査委員会終了後に最優秀賞候補作品を発表する。
- ・二次審査では、審査委員会で最優秀賞、優秀賞、入選の3作品を選定し、この審査結果を受けて、国立競技場将来構想有識者会議において最終結果（最優秀賞、優秀賞、入選）を決定、発表する。

〈表彰式〉

- ・表彰式は最優秀作品の提出者を対象に行い、この時に提出者はプレゼンテーションを実施する。

| 応募状況

- ・46 作品（国内 12 作品、海外 34 作品）

| 日本スポーツ振興センターのホームページによる案内

NEW NATIONAL STADIUM JAPAN INTERNATIONAL DESIGN COMPETITION

あたらしい国立競技場 国際デザイン・コンクール、スタート。

世界中の建築家から国立競技場の「デザイン」を公募いたします。

これは今世紀最大規模の国家プロジェクトです。

完成は2018年度。

2020年オリンピック・パラリンピックが東京に来たときにはメインスタジアムとなるものです。

その前年には「ラグビーワールドカップ(RWC)2019」が開催されます。

サッカーのFIFAワールドカップ™や、陸上の国際競技大会の開催、世界的なアーティストのコンサート等、文化・芸術の発信基地にもなります。

新しいスタジアムを新しい創り方で。

私たちJAPAN SPORT COUNCILでは、デザイン案の選定から完成までのプロセスをオープンにすることで、みんなでつくりあげていくスタジアムにしたい。

いま日本に必要なのは、夢の力だと思います。

JAPAN SPORT COUNCIL 理事長 河野 一郎

審査委員

委員長 安藤 忠雄

委員 鈴木 博之、岸井 隆幸、内藤 廣、安岡 正人、小倉 純二、都倉 俊一、ノーマン・フォスター、リチャード・ロジャース、河野 一郎

審査委員長 安藤忠雄

TADAO ANDO

地球人の未来へ向かう灯台

半世紀前に誕生した国立競技場は、世界最高のスポーツの祭典の場に相応しい場を提供し得た、

日本の近代建築誕生の宣言であり、同時にそれは、未来へと向かう国家と国民の意志表明の建築であった。

その偉大なる日本近代の遺産が、半世紀を経て新たに生まれ変わる。

驚くべきスピードで変化するグローバル化社会、複雑化する一方の人間生活。

一方で、世界人口の増加と枯渇する資源、エネルギー、温暖化等、地球環境そのものの異変など、

民族国家を超えたおおきな問題への対応を迫られている21世紀の現代。

この難しい時代に、国家プロジェクトとしてつくられる競技場とは、あらゆる制度的な枠組みを超えた、

地球人がつくる地球人のための建築でなければならない。そして、混沌とする世界状況にあって、

人々が新しい人間文明の未来を構築すべく立ちあがる、その意志を喚起するような、力に溢れたものでなければならない。

つくるべきは地球人の未来へと向かう灯台、希望の象徴となれる場所だ。

人間の叡智と現代技術の総力を結集した最高の建築を実現するため、広く世界に、アイデアを募りたい。

新しい時代の幕開けを告げる、知性と情熱に満ちた提案を期待する。

あんどろ・ただお

1941年大阪生まれ。独学で建築を学び、69年に安藤忠雄建築研究所を設立。環境との関わりの中で新しい建築のあり方を提案し続けている。1979年に日本建築学会賞、95年ブリツカー賞、05年 国際建築家連合 (UIA) ゴールドメダルほか受賞。97年より東京大学教授を務め、現在は名誉教授。2010年文化勲章を受章。2020年東京オリンピック・パラリンピック招致のためのデザインアドバイザーを務める。代表作に「淡路夢舞台」「フォートワース現代美術館」「プンタ・デラ・ドガーナ」など。